

「病名病状を伝えるときの指針」

岩手県立中部病院

1. 基本姿勢

- (ア) 本人の意思を尊重し、本人が希望しない場合を除き、本人へ病名と病状を伝える。
- (イ) 本人の了解を得て、家族にも同時に説明を行うことを基本とする。
- (ウ) 説明内容は紙に書いて渡す。カルテにも説明内容を記載する。
- (エ) 本人家族への配慮を大事にする。参照：付録「準備して起承転結」

2. 実例集

(ア) 家族が本人への病名説明を希望しないという情報があるときにどうするか？

- ① 本人と家族を一緒に呼んで
- ② 本人に確認「今から病気に関する大事な話をします、聞きたいですか？」
 - 1. 本人が「聞」くと言ったら、それを家族に伝えて病名病状を伝える。
 - 2. 本人が「聞かない」と言ったら退席してもらって家族に説明

(イ) 事前に家族から「本人へ病名病状を伝えないでほしい」と言われたら？

- ① 「どうしてですか？」「・・・そうですね、それは心配ですね」「しかし、病名を伝えていないと本人の同意が得られず、手術や抗がん剤などの侵襲をとまなう治療はできませんがどうしましょう」と伝えて、上記、面談の場を設定する。

(ウ) 本人が認知症なら？

- ① 軽い認知症なら判断能力はあるので家族と一緒に伝える。
- ② 重い認知症なら、「本人だったらどうしてほしいか」「本人にとって一番よい方法はなにか」という「推定意志」を大事にして家族と話しあう。

(エ) 本人に予後予想を伝えるほうがよいか？

- ① 予後予想は、病名病状のような事実ではなくて医師の予測であり、本人に伝えることが必須ではない。
- ② 本人に聞かれたら、予想であることを伝えつつ幅をもって知らせるので可
- ③ 例としては
 - 1. 「数日？ 数週？ 数か月？ 数年？ どの辺だと思えますか？」
 - 2. 「そうですね、しかしもっと短い（長い）こともあると思います」

以上

2026.4.6

岩手県立中部病院 川村英伸
倫理委員会 星野 彰

付録 「準備して起承転結」

1. 準備：環境を整える
 - (ア) 事前に重要な面談であることを伝えておく
 - (イ) 家族の同席を促す
 - (ウ) プライバシーが保たれた部屋、十分に時間を確保する
 - (エ) 身だしなみや時間遵守など基本的態度に留意する

2. 起：面談開始
 - (ア) 面談の始めからいきなり悪い知らせを伝えない
 - (イ) 経過を振り返り、病気の認識を確認する
 - (ウ) 家族にも同様に配慮する

3. 承：重大な話を伝える
 - (ア) 心の準備のための言葉をかける
 - (イ) 写真や検査データを用いる、紙に書く
 - (ウ) わかりやすく明確に「がん」または「悪性」という言葉を伝える
 - (エ) 感情を受け止め、気持ちをいたわる

4. 転：治療法と今後の相談
 - (ア) 標準治療、とりうる選択肢について説明する
 - (イ) 推奨する治療法を伝える
 - (ウ) 患者の日常生活や仕事について話し合う
 - (エ) 治療法の合意点を見つけていく
 - (オ) セカンドオピニオンについて説明する
 - (カ) 質問や相談があるかどうか尋ねる

5. 結：面談のまとめ
 - (ア) 要点をまとめる
 - (イ) 説明に用いた紙を渡す
 - (ウ) 患者の気持ちを支える言葉をかけ、責任を持って診療にあたることを伝える
 - (エ) 面談内容をカルテに記載する

*参照：PEACE プロジェクト・緩和ケア研修会